

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈10月17日（金）放送分〉

テーマ「おすすめの本②」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、「おすすめの本」シリーズの第2回目です。今回は、鹿児島県立図書館が発行している「鹿児島の高校生が薦める本」、「にじいろの本」から4冊紹介します。

最初の1冊目は、^{きたがわやすし}喜多川 泰さんの『^{けいせつへん}「手紙屋」 蛍雪編』です。「なぜ勉強しなくてはならないのか。」「何のために大学に行くのか。」だれでも一度はそんなふうに考えたことがあるのではないのでしょうか。この本の主人公の^{わか}和花もそんな一人です。自分の進路に悩んでいる高校2年生。進学か就職かどちらにしても「勉強しなきゃ」と思いつつ、バンドと友達づきあいに明け暮れる日々。バンドも友達づきあいもお金が必要だということで、アルバイトをしたいことを父親に^{こんがん}懇願しますが、「絶対にダメ」の一言でした。そして、してはいけない理由がわかったら、アルバイトをしてもよいという変な条件を出されてしまいます。

そんな中、和花は、義理の姉に「手紙屋」を紹介されます。和花は、不思議な思いの中で「手紙屋」との十通の手紙をやりとりしていくのです。一通ずつ手紙をやりとりしていくごとに、和花の勉強に対する考え方や生き方が大きく変化し、ついに父親がアルバイトをしてはいけないと言った理由も分かってきます。なぜ父親はアルバイトをしてはいけないと考えたのか、なぜ勉強をしなくてはならないのか、手紙屋とのやりとりをとおして和花はそれを理解していきます。手紙の一文一文が温かく、読み終わった後に急に勉強がしたくなる！そんな一冊です。

次に紹介する本は、^{あおきかずお}青木和雄さんの『^{とき}ハッピーバースデー 命輝く瞬間』です。本の最初が兄の^{しょうげきてき}衝撃的な言葉からはじまります。「おまえ、生まれてこなきゃよかったな。」主人公、あすかの11歳の誕生日。ママと兄の一言から、あやかは声を失ってしまいます。しかし、^{りょうよう}祖父母のもとでの療養、^{むしよう}祖父母からの無償の愛、美しい自然に^{いや}癒されながら元気を少しずつ取り戻していきます。そして、元気になったあすかは、家族のもとへ帰ることになります。多くの人との出会いを通じて、帰ってからのあすかは、これまでと違い「自分は自分として強く生きる」ことを心に誓い、たくましく成長していきます。小さい時の心の傷から、あすかを愛せないママ。両親の言うとおりの人生に疑問を持ちはじめた兄。あすかのまわりの家族も、たくましくなったあすかを通して少しずつ変化していきます。そんな中、大好きな祖父と親友めぐみとの永遠の別れがやってきます。命とは、生きるとは、家族とは何なのかを考えさせてくれる一冊です。

3冊目は、山田^{ゆうすけ}悠介さんの『その時までサヨナラ』です。家庭を^{かえり}顧みず、仕事に打ち込んでいた主人公、悟。家庭はうまくいかず、妻が子どもを連れて出て行ってしまいます。そんな中、ある列車事故で妻が突然この世を去ってしまいます。一人息子の裕太^{ゆうた}は、奇跡的に^{きず}無傷でしたが、心に大きな傷をかかえてしまいます。裕太が、自分に全く^{なつ}懐こうとせず、仕事の邪魔と考える悟は、義理の両親に預けようと考えます。そんな時、妻の親友だったという^{みやまえはるこ}宮前春子が、悟と裕太の前にやってきます。妻が生前、「わたしに何かあったら主人と子どものことをお願いね。」と頼まれたと言い、強引に悟の家に住むこととなります。そして、悟に、掃除・洗濯・食事・子育ての仕方を細かく教えていくのです。最初は、春子を毛嫌いしていた悟でしたが、日^たが経つにつれ、春子への思いが変化していきます。しかし、ある時、新聞を見ていた悟は、春子の^{すじょう}素性を知ることとなります。春子はなぜ、突然、悟たちの前に現れたのか、クライマックスでは、目頭が熱くなる感動の作品です。

4冊目は、「にじいろの本」から日本の昔話で、日野^{ひのかずなり}十成さんの『かえるをのんだととさん』です。ある日、ととさんの腹が痛くなります。そこで、お寺のおしょうさんに相談すると、「はらの中に虫がおるせいじゃ。かえるを飲むといいぞ。」と言われました。そこで、ととさんは、かえるをつかまえてぺろっと飲み込みました。すると、はらいたは、治って具合がよくなりました。しかし、腹の中にいるかえるが、ぺたらぺたらと歩くので気持ちが悪くなってしまいます。そこで、また、おしょうさんに相談すると、「へびを飲むといいぞ。」と言われました。ととさんは、言われた通り、へびをつかまえてぐーいと飲みました。すると、腹の中でへびが、かえるを食ったので、すっかり気持ちがよくなりました。しかし、今度はへびが、ずらくずらく腹の中で動くので気味が悪くてたまらなくなりました。そこで、ととさんは、また、おしょうさんに相談するということとなります。ととさんの腹の中にいろいろなものが入っては解決し、また問題が発生するというくり返し。^{さいとうたかお}斎藤隆夫さんの絵も物語の面白さを引き出しています。最後にととさんの腹の中はどうなるのか、ページをめくるのが楽しみな一冊です。

県立奄美図書館では、今回紹介しました4冊の本はもちろんですが、これ以外の「鹿児島の高校生が薦める本」、「にじいろの本」も貸し出ししています。ぜひ、この機会に読んでみられてはいかがでしょうか。

職員一同、皆様のご来館を心からお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。